

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371101336
法人名	医療法人 純正会
事業所名	医療法人純正会 グループホームサンハウス荒子
訪問調査日	平成 20 年 7 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 8 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371101336		
法人名	医療法人 純正会		
事業所名	医療法人純正会 グループホームサンハウス荒子		
所在地	名古屋市中川区高畑二丁目274番地 (電話) 052-353-0351		
評価機関名	特定非営利活動法人 『サークル福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地COMBi本陣 N203		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年8月13日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月 2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤 11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14.7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(2年)
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 7 月 2 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	名古屋西クリニック病院 東洋病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、地下鉄高畑駅(5番出口)から、徒歩4~5分の住宅街にあり、すぐ東には荒子公園、その南には荒子観音がある。利用者は散歩したり、お参りする恵まれた静かな環境にある。建物の1階は、同法人のデイサービスセンターになっている。ホームの運営法人は医療法人のため、医療面で連携が取りやすく、本人や家族は安心して生活している。職員は利用者や家族に寄り添い、一人ひとりの個性を尊重し、家庭的で穏やかな暮らしができるように努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、地域との交流の不足が改善課題とされたが、7月の運営推進会議に住民代表の方の出席が得られ、また中学校の体験学習の受け入れを実施するなど、地域との双方向の交流が深まりつつある状況である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果は職員全員で話し合い、ミーティングなどで情報を共有し、サービスの改善につながるよう実践している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族と職員を中心に定期的開催されている。3月の会議内容は、①ホームの現状、②後期高齢者医療制度について、③訪問看護制度の変更点について、取り上げられた。7月の会議には、民生委員の出席も得られた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今回実施の「家族アンケート」の結果では、多くの家族から高い満足度を得ている。利用者個々の「近況報告」を毎月郵送したり、定期的に家族会や食事会を開催するなど、家族の要望や意向をよく聞き、サービスに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や自治会には加入していないが、利用者は日々の散歩時に、なじみの人たちと挨拶を交わしたり、地域の敬老会やお祭りに参加している。また中学校の体験学習などの地域住民との交流を利用者は楽しみにしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、開設時「一人ひとりの個性を尊重し家庭的で穏やかな暮らしを目指す」を、事業所独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアの入口に職員の写真と共に掲げられており、日々のサービス提供面では管理者、職員共に理念を意識した取り組みがなされている。職員採用時には必ず理念について伝えられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は散歩の際になじみの人と挨拶を交わしたり、近隣の喫茶店に立ち寄りたりしている。地域の敬老会やお祭りに参加したり、中学校の体験学習等の受け入れを行っており、地域の人が気軽に立ち寄ってもらえるような関係づくりを築きつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が目を通し、前回の外部評価の内容結果は、全職員に周知し、改善に努めている。外部評価により、とかく見えていなかったり、あきらめていたことを発見する気づきなどの、機会として活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3か月に1回開催されており、家族と職員を中心におこなわれている。議題は利用者の状況報告や医療制度、訪問看護制度の変更点などをとりあげている。7月開催時には地域住民代表の方の出席が得られている。	○	今後も、運営推進会議の場に、地域の人たちの出席を呼びかけていくことにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中で生活保護に関して、保護係へ相談に行ったり、情報提供など行っている。	○	ホームの実践活動や現状を行政に理解してもらうためにも、現状の連携を深めながら、利用者の課題解決のための働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時に職員は、日頃の様子や体調等について、詳しく話し合える機会としている。毎月発行のホーム便りには、その利用者個々の、日頃の写真や生活の様子を分かりやすく知らせたり、立て替え金の支出状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を実施し意見や要望を吸い上げ、運営に反映させている。家族等の面会時には職員は家族と気軽に話ができる雰囲気づくりに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は定期的に職員に対するヒアリングを実施し、意見や提案を聞き、職員定着に努めている。新しい職員は慣れた職員と一緒に、ケアにあたり支障がないようにしている。2~3か月に一回、一人ずつ職員のユニット間での異動を行い、他のユニットの職員も利用者との馴染みの関係を作っているため、異動しても利用者への混乱は少ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供を行うとともに、研修費用を援助したり勤務の配慮を行なうなど、職員が参加しやすい体制を整えている。日常のミーティングの中で内部の勉強会も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交換研修を検討し、交流できるようにしていきたいと考えてはいるが、現在は、管理者・リーダーのレベルでの情報交換である。	○	同業者間の交換研修を検討していることから、そこで学ぶことも多いと思われるため、実現に向けた取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得して入居できるよう職員が自宅や病院に出向いていき、面談や情報収集を行なっている。体験入居も勧めており、じっくりと話を聴く機会も設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の持てる能力や、若い頃得意としていたことを、自発的に引き出すようにして、ケアに取り組んでいる。食事の片づけを手伝ったり、職員と一緒に野菜作りをしたり、プランターの花を職員と一緒に買いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりとは違うという認識で、本人の意向を言動から把握に努めている。意志疎通困難な利用者に対しては、本人からの表情やしぐさ、家族やケアマネジャー・病院の関係者から情報を得て、可能な限り日常生活に寄り添うようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人、家族の意見を取り入れ、ホーム日誌や申し送りノートの情報を把握した上で、職員全員で検討、作成されている。利用者個々のファイルに保管されている介護計画は、職員はいつでも見ることができ、毎日のケアに活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りの中から、利用者の現状は常に職員間で共有している。転倒により車椅子が必要になったり、嚥下困難になった為、きざみ食へ変更したり、食事を自分で食べられなくなり介助が必要になった等、その都度ショートカンファレンスを行い、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	慣れ親しんだホームでの生活が続けられるように、食事・水分摂取が困難となった、ターミナル状況の利用者の家族が、約一か月ホームへ泊まり込んで対応された。また、爪を痛めた時、家族が対応できなかった為、職員が受診同行したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、訪問診療に他区からホームに来ている。また、毎週かかりつけ医に注射対応を受けている人もいる。ホームが医療法人であることから、家族は安心して運営法人の医師をかかりつけ医へと変更される人も多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応方針」について、入所時に家族に承諾書を得ている。本人、家族から「できるだけ入院せずに・・・」という意向があれば主治医、訪問看護と連携し、チームとしての支援に取り組む準備を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	室内の扉やトイレの扉は閉めてケアを行うなど、職員は尊厳を大切に、プライバシーを損ねないような言葉かけや、さり気ない誘導により、一人ひとりの生活を大切にケアを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの生活の流れはあるが、その中で1日何をして過ごしたいかを利用者本人の意向を聞き取り、最優先している。利用者の意思決定が難しい場合には、体調を見極め、自発性、個別性を尊重できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入へ同行できる利用者は、職員と一緒に車で買い物に行ったり、調理・配下膳・食器洗いを手伝う人もある。食事は職員も一緒に同じものを食べながら、介助の必要な折にはスプーンで口へ運んであげたり、むせ込み時にはお茶を手渡し、背中をさすったり、会話をしながら楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴可能としているため、ほとんどの人は入浴するが、時々入浴を拒んだり、面倒がる人もあり、また、体調不良の利用者については清拭や足浴などで柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族会の後は食事会として、利用者とその家族共々楽しむ時間となっている。また、部屋へ閉じこもりがちな利用者には、トランプ・ぬり絵・将棋など一緒に楽しめることに誘い出したり、ベランダの菜園に水やりをしたり、俳句の趣味がある方で題材探しに外出を希望するときは個別に対応支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのすぐ東には、荒子公園、南には荒子観音と、散歩・参拝などの外出環境には、地理的に大変恵まれている為、毎日散歩に出かけている利用者も多い。喫茶店へ行きたい、買い物に行きたいなどの要望については、シフトを工夫して職員は同行している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現状優先の安全と鍵をかけないケアの実践を考えながら、玄関は、夜間以外は開放している。しかしながら、ホームの構造上、各フロアの入り口は死角ですぐ階段がある為、職員は充分注意していても危険が予測される。また、家族からの要望もあり各フロアの入り口は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の火災、出火場所、地震など色々な場面を想定して、年2回避難訓練を利用者と一緒に実施している。職員は緊急時の対応、消火器の使用法、連絡網の周知など常に意識の向上を図っている。また、レトルトの食料・飲水については、充分備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者と共に食卓を囲み、食事が滞る利用者に声かけをして食事摂取量をチェックしている。十分な飲水を確保するためにお茶ゼリーなどへ工夫して個別の対応を行っている。献立については、各フロアで利用者からの希望を取り入れ、栄養バランスに配慮した献立表を1週間分作り、食事を作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには、プランターで野菜を作り(トマト・キュウリ・モロヘイヤ)食材にしたり、咲き乱れる花々がガラス戸越しに和ませている。廊下・ホールには、七夕祭りの時の楽しそうな笑顔の写真や、共同作品が飾られている。ソファで寛ぐ利用者、職員と話しながら食器を拭いている利用者、テレビを見ている利用者など、思い思いに心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には、折り紙作品や写真が飾っており、居室を間違えないように工夫されている。ベッド・カーテン・エアコン・洗面台は据え付けだが、ホームでは入居時家族と相談して、利用者が長年愛用した調度品やミニタンス・仏壇・家族の写真など持ち込み、プライベートな空間として居心地良く生活している。		